

高校生 実森 翔哉 18歳

祖母の葬式の時、折り鶴を作った。祖母がさびしい思いで旅立つことがないようにするためだ。

笑顔が絶えない人だった。私の身長が伸びた時、姉が大学受験に合格した時……。いつも私たちを優しく見守り、成長を喜んでくれた。

鶴を折るのは初めてだったので、スマートフォンで折り方を調べた。5分ほどで1羽できた。その鶴は、体の部分がつぶれ、飛び立ちそうになかった。われながら不器用だと、

## 亡き祖母思い折り鶴

ため息をついてしまう。

これでは、祖母に笑われてしまうと思い、もう1羽折ってみる。今度は少し慣れたのか、3分ほどで完成した。今度は飛び立てそうだ。

祖母には、何百、何千回も言えない「ありがとう」がある。これからの人生で、それを返さないといけない。

空で見守っているであろう祖母のためにも一生懸命生きると、私は鶴に願いを込めた。

(広島県安芸郡)

ヤングスポット